

令和5年度 日野市立三沢中学校経営重点計画				自己評価シート				令和6年3月公表			
★学校教育目標				★重点計画の概要							
★目指す学校像（ビジョン）				①郷土を愛し、郷土に生きる生徒としての自覚を育み、人も自分も大切にしながら、人の役に立つことの喜びを知る「心豊かな生徒の育成」を目指し、道徳授業の充実、地域をステージにした特別活動の充実を図り、道徳的実践力や協働して課題解決をする力の育成を推進する。また、安心安全な学校づくりのため、災害教育といじめ防止を組織的に推進する。 ②学ぶ姿勢づくりを基本に、ICTを活用した授業の実施や日野スタンダードに基づくUD化された授業の構築を進め、分かりやすい授業を展開し思考力、判断力、表現力を高め、話し合い活動を取り入れ、学力の向上を目指す。							
【めざす児童・生徒像】											
【めざす学校像】											
【めざす教師像】											
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
いのち	豊かな心の育成	○人権教育・道徳教育の一層の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育成する。	①人権教育や道徳教育を通して、心の教育の充実を図り、人それぞれの個性の違いや多様性を認め合う心を育成する。 ②「いのちの授業」を実施し、いのちの大切さについて考える時間にする。 ③がん教育やSOSの出し方教育を実施する。	3	4	95%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた	3	4	生徒アンケートで、95%以上が思いやりの気持ちを高めることができたと答えた	○思いやりの行動に心がとまない成り立つことに意味がある。これは様々な人間関係の中でしか生まれない感情でもある。良い結果として見ることが出来る。○今後も、様々な授業や教育を通して、豊かな心の育成を行って行って欲しい。○先生方のアンケートではいのちのSOSを100%と評価しており、生徒の大半も思いやり、他人を大切にすることが出来ていると思われる。	○教育活動全体を通して、自分も他人も大切にする心を育むことを重視してきた結果とともに、人とのつながりの大切さを実感したことも影響していると考え。 しかし、僅かとは言え、いじめがなかったわけではないので、今後も生徒の心情を高め、実践につながる教育活動を行っていく。
					3	90%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた		3	生徒アンケートで、90%以上が思いやりの気持ちを高めることができたと答えた		
					2	85%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた		2	生徒アンケートで、85%以上が思いやりの気持ちを高めることができたと答えた		
					1	思いやりのある心を育成することができた教員が85%未満		1	生徒アンケートで、思いやりの気持ちを高めることができたと答えた生徒が85%未満		
一人一人を大切に	充実した学校生活の推進	○生徒一人一人が、充実して学校生活が送れるような環境を構築する。	①毎月実施する生活状況調査を活用し、生徒の学校生活の様子を把握するとともに、いじめ防止等に取り組む。 ②夏休みの1年生家庭訪問や2・3年生三者面談を実施することで、生徒理解に努め、家庭環境も把握する。 ③学校行事、生徒会活動、部活動を通して、生徒が主体的に取り組める体制を構築する。	3	4	95%の学級が計画通り実施できた	3	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒が充実した学校生活を送れた	○先生方が精一杯取り組んでいるように思う。アンケート結果から生徒の一部には出来ていないの数%いることが気になった。時には生徒目線になることも大事である。○得意とすることが一人一人異なる中で、あらゆる生徒が自分の力を発揮し、充実していると感じられる場を学校は提供してあげて欲しい。	○落ち着いた環境が整ってきており、個々の生徒の課題に応じた対応ができる体制も整えてきた成果と考える。 次年度は、より多くの生徒がそう感じることができるよう、個々の課題をきめ細かく把握し、対応できるようにする。
					3	90%以上の学級が計画通り実施できた		3	生徒アンケートで、90%以上の生徒が充実した学校生活を送れた		
					2	85%以上の学級が計画通り実施できた		2	生徒アンケートで、85%以上の生徒が充実した学校生活を送れた		
					1	計画通り実施したできた学級が85%未満		1	生徒アンケートで、充実した学校生活を送れたと答えた生徒が85%未満		
多様な学び	一人一台の端末を活用した授業	○全ての生徒に対して、分かる授業を実践し、学力の向上を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの構築	①学習規律を確立し、生徒一人一人の学力向上を図る。 ②クロムブック（ICT等）を活用した授業を実践する。 ③ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法の工夫・改善を目指す。	3	4	95%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた	3	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた	○学年、教材や先生により活用率のばらつきがある。活用されている先生は工夫して取り組まれている。○ICT活用の簡単な取組でも生徒が出来たと実感できる展開が必要だと思う。○クロムブックの活用が少ないとアンケートに出ているが、活用状況が保護者に伝わっていないようにも思える。○わかる授業、授業のユニバーサル化に向けて、先生方の指導力向上を期待する。授業準備の時間確保が大切である。	○ICTを活用した授業が構築されてきている。工夫した授業実践に散り組み、「授業は分かりやすい」という問いかけに対しては、教員、生徒とも90%となり、今後もICTを活用した授業をより一層取り組んでいく。
					3	90%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた		3	生徒アンケートで、90%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた		
					2	85%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた		2	生徒アンケートで、85%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた		
					1	授業改善を実施し、成果を確認できた教員が85%未満		1	生徒アンケートで、「授業は分かりやすい」と答えた生徒が85%未満		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた教育を進めるとともに、特別支援教育の視点に立ったユニバーサルデザインを推進する。 ○がんばルームの充実を図る	①教育相談部会を毎週開催し、生徒の実態を共通理解し、共通実践を図る。特別支援コーディネーターとSC、発達臨床心理士、SSW等の連携により、家庭・地域との相談・支援体制を構築する。専門家（巡回相談等）の見立てを指導に生かすよう般化に努める。 ②特別支援教室、リソースルームとの連携を図る。 ③全教職員ががんばルームに主体的にかかわり、生徒への支援の充実を図る。	3	4	95%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ	3	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた	○がんばルームは今後も是非継続して欲しい。生徒の居場所の選択肢として必要性を感じる。 ○一人一人への対応は非常に時間のかかることですが、どのように成長出来るかを忘れずに対応して欲しい。	○ステップ教室、リソースルーム・がんばルームとの連携は、図ることが出来た。来年度より開設するチャレンジクラスの運営とがんばルームの連携を行っていく。○常に生徒に寄り添った指導を行うことを心がけていく。
					3	90%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ		3	生徒アンケートで、90%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた		
					2	85%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ		2	生徒アンケートで、85%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた		
					1	特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ教員が85%未満		1	生徒アンケートで、きめ細かく個に応じた指導を受けることができなかった生徒が85%未満		
地活	家庭、地域との連携	○地域との交流を図り、地域に根差した教育を推進する。	①学校公開を毎学期実施し、地域の方々や保護者に学校の様子を公開していく。 ②学校・学年便り、WEBページ等を活用し、生徒の活躍など情報発信を図る。 ③青少年地区育成会等の地域行事にできるだけ多くの生徒を参加させる。 ④ちょこっとボランティア活動を実施し、地域との関わりの中で、生徒に自己肯定感を持たせる機会とする。	3	4	95%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ	2	4	生徒アンケートで、95%以上が「人の役に立つことができた」と答えた	○保護者へ学校の様子を伝える手段が必要である。 ○ちょこぽに対して、生徒たちの取り組みに差があるのを感じる。単に行事としてこなすだけでは、本当に必要とされるものは育たない。生徒が自主的に取り組み、自己肯定感を高めていくためには、その目的を意識させるような、先生方の声かけなどが大切と思われる。	○学校の様子は、保護者にホームページなどでタイムリーに伝えていく。学校便りも、ホームページに掲載しているが、閲覧数が少ないので、home&schoolで今後も周知していく。○「ちょこっとボランティア」の活動を行うには、事前指導などを行う必要性がある。また、これらの取組を通して、生徒のボランティアに対する意識を高めていく。
					3	90%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ		3	生徒アンケートで、90%以上が「人の役に立つことができた」と答えた		
					2	85%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ		2	生徒アンケートで、85%以上が「人の役に立つことができた」と答えた		
					1	ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組むことができた教員が85%未満		1	生徒アンケートで、「人の役に立つことができた」と答えた生徒が85%未満		
自治共生	防災、防犯・安全に関する教育の推進	○火災・地震・不審者対応など、非常事態の対応について、生徒自らの判断で行動することが出来る能力を育成する。	①様々な場面を想定した避難訓練を実施し、臨機応変に行動できる力を身に付けさせる。 ②自然災害について学習し、地震以外の災害対策についても学習を深める。 ③集団で下校するような事態にも対応する心構え等を身に付けさせる。	3	4	95%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた	3	4	生徒アンケートで、95%以上が「防災教育を学習できた」と答えた	○「臨機応変な行動」は、大人でも難しいが、日々の生活の中での教育をお願いしたい。また、訓練が訓練で終わることがないようにして欲しい。○今、災害に対して危機意識を持ち、いざという時にどのような行動が出来るか、防災教育は人間性が問われる課題でもある。	○生徒は、様々なケースの避難訓練が体験できたので、もしもに備えた学習ができた。これを生かして実際に災害が起きた時に沉着冷静に行動出来ることを今後も指導していく。
					3	90%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた		3	生徒アンケートで、90%以上が「防災教育を学習できた」と答えた		
					2	85%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた		2	生徒アンケートで、85%以上が「防災教育を学習できた」と答えた		
					1	防災教育の成果を確認できた教員が85%未満		1	生徒アンケートで、「防災教育を学習できた」と答えた生徒が85%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。